

経緯について

- H26.4 県サッカー協会、県ラグビーフットボール協会、県アメリカンフットボール協会、ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブが連名で、総合球技場の整備についての要望書を知事に提出
- H26.9 当該4団体が10万人に近い署名を知事に提出
- H28.2 知事が「整備を前提とした検討に着手する」旨を表明
総合球技場の調査検討費を平成28年度当初予算に計上

整備について

整備検討の視点

- 総合球技場は、大規模な競技大会やイベントの開催を通じ、交流人口の拡大や地域経済への波及効果を創出する拠点となり得る。
- その機能を最大限に発揮させるためには、交通の利便性が高く山梨を象徴する場所が望ましい。

整備の考え方

- リニア環境未来都市における施設として位置付け、リニア駅周辺を含む半径4キロ圏内への整備を目指す。
- 平成28年度に検討委員会を設置し、施設の機能・規模、建設場所、運営方法等について検討に着手する。

総合球技場のあるべきすがた

【総合球技場検討委員会資料】

これまでの委員の提言を踏まえ、本県が整備しようとする総合球技場のあるべきすがたについて、各視点から主な項目について整理する。

[立地の視点]

山梨の強みを生かす

リニア開業による立地の優位性を生かすものであること
周辺環境と調和した山梨らしいものであること

[整備・運営の視点]

県民の負担を軽減する

本県にとって適正規模となること
建設のための財源確保・効率的な運営手法を念頭に置くこと
利用用途を多様化し、収益の上がる仕組みを組み込んだものとする

[機能の視点]

県民の「見るスポーツ」などを充実するとともに地域の発展の可能性を拡げる

サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど幅広い競技を実施することができること
上質な臨場感・躍動感とその場の一体感を醸成し、観客やプレーヤーの満足度を高めるものであること
県民の交流の場となるとともに、広域交流人口の拡大を生み、定住移住を促進できるものであること
スポーツやイベントを通じて、地域経済への波及効果を創出し、本県の振興に大きく貢献するものであること
県民の健康増進に寄与し、高齢者や障害のある人なども気軽につどい感動を共有できるものであること
若者に夢や希望を与え、県民のシビックプライド（山梨に対する誇りや愛着）を育むものであること
観光資源、スポーツツーリズムの拠点として滞在を促すものであること
山梨のランドマークとして、常に本県の新鮮な情報を国内外に発信できること
災害発生時に防災拠点としての役割を担い、地域の防災力を高めるものであること

収容人数 20,000 人規模

建設候補地の選定の考え方

【総合球技場検討委員会資料】

【候補地選定における主な条件】

収容人数 約2万人の総合球技場を想定
[想定面積 = 9万 m^2]
(本体3万 m^2 + 駐車場6万 m^2 (約2千台分))
本地面積: フクダ電子アリーナ等を参考

リニア環境未来都市にあること(リニア駅から半径4km以内)

一団の用地取得が可能であること
(住宅・事業所等が連坦していないこと)

リニア駅等公共交通とのアクセスに優れていることを基本とすること

県有地等(取得予定含む)の活用可能性があること

リニア開業時までには整備可能であること

